

コンタクト・インプロヴィゼーションが身体意識にもたらす影響 - 体育系大学生を対象として -

劉 晶(大阪体育大学大学院)

白井 麻子(大阪体育大学)

1. 背景および目的

コンタクト・インプロヴィゼーション(CI)は1972年にスティーヴン・パクストンによって考案した即興的なダンス形式であり、身体接触している二つの動的な身体間に行うコミュニケーションと、重力(gravity)、モメンタム(momentum)、慣性(inertia)といった物理的法則との関係に基づいている(Paxton, 1975)。CIは身体を「道具ではなく、知的な実践者」(Novack, 1990)として経験するよう呼びかけ、自己と存在、他者および空間との関係を探求する芸術形式として存在している。

先行研究においては、CIの実施により重量と重力の理解、空間感覚などの身体スキルの獲得と、物理的な接触を通じた信頼感や対話の喜びが得られることと報告されている(相馬, 2006)。しかし、対象者の視点からCIがどのように身体意識の影響を与えるのかについての研究は、これまであまり着目されてこなかったといえる。

そこで本研究では、CIのワークショップ(WS)を通じた対象者の体験に焦点を当て、CIが対象者の身体意識にどのような影響を与えるのか、さらにダンス教育現場におけるCIの汎用可能性を検討することを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、体育系大学にてダンスを履修している学生25名を対象にCIのWSを実施した。WSは、2名のCIの熟練者(以下、指導者とする)が担当し、対象者および指導者の様子をビデオ録画した。CIのWSの実施により対象者の身体意識の変化を探るため、WS前後に質問紙調査し、WS一週間後にインタビューを実施した。質問紙の構成は、フェイスシートと二次元気分尺度(TDMS)であった。同意が得られた対象者を3つのグループ(4人、4人、7人)に分け、各グループにおいて約80分間の半構造化インタビューを行った。

また、WSを教える際の狙いなどを明確にするため、指導者に50分間の半構造化インタビューを実施した。すべてのインタビュー内容は録音し、逐語録を作成した。得られたデータは、M-GTAを用いて質的に分析し、WS体験後の身体意識の変化を明らかにした。

3. 結果と考察

TDMSの結果、WSの実施により、活性度、快適度、および覚醒度が有意な変化が見られた($p < 0.01$)。これより、CIが対象者の心理的状态にポジティブな影響を与えることが明らかになった。

M-GTAによる分析の結果、18個の概念が生成された。文中の【】はカテゴリー、<>は概念を示す。その概念から【スポーツによって異なる身体】、【力の共有から生まれた感覚】、【対象者が感知したこと】、【到達できなかったところ】という4つのカテゴリーが生成された。

まず、スポーツ経験のある対象者は各自の種目による身体の使い方の違いがあるとのことが示された。対象者は【スポーツによって異なる身体】を持ち、相手を<他者>または<敵>として認識し、対立的な身体感覚が強いと考えられる。

続いて、WSを通じて対象者は【力の共有から生まれた感覚】を体験し、特に<バランスをとる>ことや他者の<パワーを感じる>といった。しかしながら、【対象者が感知したこと】には、<知らない>、<密接の距離>、<経験ないことの怖さ>などの感情にもみられた。

また、対象者はCIが<ダンスっぽくない>と言及した。彼らはダンスの形に対する固定観念が根強いことがわかった。これこそ、CIのような触覚に基づいた内面的な集中と調和を重視される芸術形式(Dean, 2022)に対して、対象者は新鮮さと抵抗感の両方を味わった。

【到達できなかったところ】には、指導者は、身体で探究することの面白さ理解させることを狙い、対象者の探究心を高め、未知の動きや予期しない反応に対する好奇心と開かれた態度を養うことを期待していた。

以上より、本研究では対象者が身体的な動きは習得していたが、CIを指導する側の狙いを理解するには至らなかったと考えられる。競技スポーツ特有の対立的意識が、他者との協力や支え合いに対する回避的な態度を生んだ可能性があるかと推察された。

[参考引用]

Paxton, S. (1975) 'Contact Improvisation' The Drama Review: TDR, 19:1, pp 40-42

Novack, C. J. (1990) Sharing the dance: Contact improvisation and American culture

相馬秀美 (2006) 大学におけるコンタクトインプロヴィゼーション授業に関する考察

Deans, C, Pini, S. (2022) Skilled performance in Contact Improvisation: the importance of interkinaesthetic sense of agency. Synthese 200, 139